ふれあい

NO. １９６
２００９．１０．１５．
社会福祉法人　大阪市知的障害者育成会
(別名 大阪市手をつなぐ親の会)
http://city-osaka-ikuseikai.or.jp
大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センターＢ１Ｆ
発行責任者　笹野井　庸夫
TEL 06（6765）5621　FAX 06（6765）5623

障害者のスポーツにおける教育的可能性

大阪市障害者スポーツセンター・スポーツ振興部
次長　高橋　明

一、はじめに

義務教育下にある小学校・中学校では、総合的な学習の時間が設定され「福祉」への取り組みが増えており、障害者理解への糸口として、「障害者のスポーツ」を通して、障害を理解する試みがなされています。私自身、障害者のスポーツと関わって三十五年、障害者のスポーツは「まず見ることが大切」と言い続けています。児童や生徒たちが障害者のスポーツをまず見る。そこから人間の可能性へと広がり、障害者への理解に繋がると信じています。

私が、学校を訪問して行う講演では、「今、皆さんが座っている姿勢が、車椅子の姿勢ですよね。」と話を切り出すことがあります。「今、皆さん方は、車椅子の人と同じ立場で、私の話を聞いてくださっています。」「この教室に、実際に車椅子に乗っている人が居られても、皆さん方と同じ姿ですから私の話を聞くには何の不便さ（ハンディキャップ）もありません。」「でも、この教室を出ると階段がある。下れない、上がれない。それがハンディキャップです。」「皆さん方は、私の講演が終われば、教室まで歩いて帰れる。でも、車椅子の人は、今、皆さん方が座っている姿勢のまま、一生すごすわけですよね。」「そのままの姿勢で、一生すごそうと思えば、不便さがありますよね。」と話を続けます。そこから障害者のスポーツの話題に入ります。「私たちが座ることで、同じスポーツが楽しめる。」「車椅子バスケットボールの選手たちは、足が不自由な人たちばかりですから、彼らの足でバスケットボールを楽しむことができません。でも、足が不自由なところは、車椅子で補えます。私たちが車椅子に座ることにより、障害のある人もない人も一緒に楽しむことができるというのが、車椅子バスケットボールです。」「これが、障害者のスポーツのとらえ方です。」と説明します。

二、障害者のスポーツのとらえ方

「障害者スポーツ」という特殊なスポーツはない。障害のためにできにくいことがあるだけだという理念のもとに、「何ができないか」ではなく、「何ができるか」に視点を向け、用具やルールを工夫しながら行われているものを、「障害者のスポーツ」と呼んでいます。スポーツというのは、もともと遊びの中から生まれてきたものが多いので、ちょっとした工夫をするだけでみんなが一緒に楽しめます。

たとえば、学校教育の中で、いろんなスポーツが行われていますが、中学と高校ではバレーボールのネットの高さが違っています。これは、中学生と高校生では体格や体力、技術等が違うという身体のハンディキャップをカバーして、同じバレーボールを行うための創意工夫です。だから障害者のスポーツも「目が見えない」「耳が聞こえない」「車椅子利用」といった不便さを用具やルールを工夫することで、みんな一緒に楽しもうというのが基本的な考え方です。私たちは、それをアダプテッド・スポーツ（それぞれに工夫したスポーツ）という呼び方で広めようと思っています。もちろん障害者のスポーツだけでなく、高齢者のスポーツ、子どものスポーツといった意